

令和2年度日本カヌースプリント選手権大会 (石川県小松市 木場潟カヌー競技場)



令和2年9月9日(水)から13日(日)の5日間、新型コロナウイルス予防対策を十分に行い、令和2年度日本カヌースプリント選手権大会が石川県小松市木場潟カヌー競技場で行われた。

今大会は自衛隊体育学校が出場する今年度初の全国大会となり、カヌー一班からは8名が出場し、坪田恵3等陸尉が3連覇(WC-1 500m)など、体校選手が活躍し好発進を切った。

貫禄の力漕

canadian-1 500m

他を寄せ付けず

坪田3尉は、11日の500m競技予選を危なげなく1位通過し、翌日の決勝に駒を進めた。迎えた決勝、スタートから他の選手を寄せ付けず、圧巻のレース展開でゴールまで独走となった。1000分の1秒を争うカヌー競技において2位に約4秒の大差をつけ3連覇という偉業を成し遂げた。翌13日、予選を1位通過し、二冠を狙いに挑んだ200m競技決勝では、昨年度同種目優勝の桐明輝選手(福井県スポーツ協会)との一騎打ちとなった。レース中盤まで坪田3尉がリード、最後の競り合いで0.81秒及ばず2位となった。

坪田3尉は「まだまだ強くなれる。今回の大会で技術・体力面の課題がはっきりと分かったので、さらに練習して強くなり、代表選考を制したい。」と語った。



3連覇の金字塔を打ち立てた坪田3尉

K-4 500m競技 カヤック4人乗り



録会となった。一糸乱れぬ4人の動きと圧倒的なスピードで会場を魅了した。

藤嶋2曹と松下3曹は「緊張感がありいいレースができた。今後は新しいレースプランを実践できるように1日1日を大切に練習し、更にレベルアップして皆さんの期待に答えたい。」と語った。

大会を終えて、カヌー一班監督石川浩二2等陸尉は「今回の大会は各種国際大会の代表選考等には影響はないが、大会に出場できたことは選手にとって重要な経験となった。」と語った。



日本選手権で活躍したカヌー一班

2020 東京五輪内定選手

Kavak-4

藤嶋2曹・松下3曹が会場を魅了する

K-4 500m競技で東京五輪出場が内定している藤嶋大規2等陸曹と松下桃太郎3等陸曹は、新型コロナウイルス感染症の影響で9月から転戦予定のワールドカップも中止となり、今大会が今年度最初で最後のレースとなった。K-4 500m 競技は藤嶋2曹と松下3曹が乗り込む1艇のみの出場になった為、大会規定に基づき公認記録会となった。



前から2漕者：松下3曹
4漕者：藤嶋2曹

今後、カヌー一班は東京五輪への出場とメダル獲得実現のため、令和3年4月下旬に予定される代表選考会を当面の目標に、さらなるレベルアップを目指していく。

競技結果(入賞以上)

階級	名前	出身地	種目	1000m	500m	200m
3等陸尉	坪田 恵	広島県	カナディアン		1位	2位
2等陸曹	藤嶋 大規	山梨県	カヤック			2位
2等陸曹	佐藤 光	佐賀県	カナディアン	3位	4位	
3等陸曹	小又 明良	広島県	カヤック		3位	5位
2等陸曹	籾 碧透	北海道	カナディアン	8位	5位	
2等陸曹	濱田 貴史	長崎県	カナディアン		8位	

CONOE SPRINT 用語説明



カナディアン：片手漕ぎ
C-1：カナディアン1人乗り
WC-1：女子カナディアン1人乗り



カヤック：両手漕ぎ
K-1：カヤック1人乗り
K-4：カヤック4人乗り

PHOTO GALLERY

自衛隊体育学校の活躍・活動をWebサイト、Instagramでご覧ください。

http://www.mod.go.jp/gsd/phy_s/index.html

自衛隊体育学校 検索

